

自己評価報告書

平成23年5月25日現在

機関番号：26301

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2008～2012

課題番号：20592681

研究課題名(和文) 認知症高齢者の生きる力を支援するフットケアプログラムの開発

研究課題名(英文) Development of the footcare programs for supporting the zest for living of demented elderly

研究代表者

西田 佳世(NISHIDA KAYO)

愛媛県立医療技術大学・保健科学部・准教授

研究者番号：60325412

研究分野：老年看護学

科研費の分科・細目：看護学・地域・老年看護学

キーワード：認知症、高齢者、フットケア、QOL、足トラブル、足趾間湿度

1. 研究計画の概要

高齢者を対象としたフットケアへの関心は高まっているが、そのエビデンスは確立されていない。中でも、認知症がある高齢者の多くは、歩く力や立つ力が残っているにも関わらず言語的な意思疎通が困難であることから、予測困難な転倒事故の防止にケアの視点が置かれ、窮屈な靴を履いたまま、長時間座位で過ごすことを余儀なくされている。さらに、認知症高齢者は、自らの足のケアができず、足を動かすことさえままならない状況下であり、苦痛の表現ができないために足のトラブルを多く抱えている。そのため、立位・歩行時のバランスが取り難く、歩行力の低下を招いているケースは多い。認知症高齢者にとって、歩く力が残っていることは、自分らしく、自分の望む生活を送ることにつながると考えられ、フットケアは、その生きる力を支え、転倒しにくい足作りにも大いに役立つ。

そこで、本研究では、以下の(1)～(6)に関する調査結果を通して、施設で暮らす認知症高齢者を対象としたフットケアを効果的に実践できるフットケアアセスメント指標および介入プログラムを作成し、フットケアのエビデンスの確立、認知症高齢者の生きる力を支援できるフットケアプログラムの開発を目的とする。

(1) 介護保険施設入所中の認知症高齢者の足・足趾の実態把握

(2) 介護保険施設入所中の認知症高齢者のケア状況別の足趾間湿度の把握

(3) ケア提供者の認知症高齢者のフットケアに関する意識とケアニーズ、ケアの現状の把握

(4) 介護保険施設入所中の認知症高齢者

へのフットケアに関する課題の抽出

(5) 介護保険施設にて実践可能な足のアセスメント指標の開発

(6) 介護保険施設にて実践可能なフットケアプログラムの作成

2. 研究の進捗状況

(1) 介護保険施設入所中の認知症高齢者の足・足趾の実態把握

介護保険施設入所中の認知症高齢者の約75%に足・爪の変形、約90%に足趾の浮きがあり、立位時に姿勢バランスが保持し難い足であることが明らかになり、足趾周辺の発赤や陥入爪、浮腫の発生状況から、靴の着用方法を含めたフットケアの必要性が示唆された。調査結果は現在投稿準備中である。

(2) 介護保険施設入所中の認知症高齢者のケア状況別の足趾間湿度の把握

1日8時間以上靴の着脱を行うことがない認知症高齢者の靴内の足趾間湿度測定を行い、足趾間をよく拭いて乾燥させる等のフットケアを行っても、その後、靴下や靴を着用すれば、足趾間湿度はフットケアを実施していない状況と同様となり、自らの意志で靴の着脱や苦痛の表出が困難な認知症高齢者へのフットケアとしては不十分であることも明らかになり、認知症高齢者に焦点をあてたフットケアプログラムを構築する必要性が示唆された。調査結果は現在投稿準備中である。

(3)、(4)は、22年度から、特別養護老人ホームの看護師と介護士を対象に調査継続中である。

(5)、(6)は、23～24年度に実施を予定している。

3. 現在までの達成度

③やや遅れている。

(理由)

平成 20 年～22 年度に実施した調査は、介護保険施設入所中の認知症高齢者を対象に、研究者らが直接、施設に出向き、直接観察および測定することが必要であった。対象が認知症高齢者であり、研究倫理に基づいて本研究を実施するため、本人の研究参加承諾だけでなく、主介護者の承諾を得て実施したため、主介護者からの承諾を得る方法の検討にも時間を要した。また、同一対象に 3 条件での測定を実施する必要があるため、対象者の生活リズム、身体的・精神的状態を整え、同条件で測定を実施することに時間を要した。

インフルエンザの流行等、予期しない感染症の発生により、協力者の入所施設の感染予防対策に準じて、調査時期の検討を行い、安全面を最優先しながら実施したため、22 年度には、ケア提供者の調査が終了する予定であったが、現在進行中であり、やや計画が遅れ気味である。但し、調査の実施が遅れた期間には、国内外の研究の動向についての情報収集を進め、目標達成に向けての取り組みは順調に進んでいる。

4. 今後の研究の推進方策

平成 23 年度中には、ケア提供者の認知症高齢者のフットケアに関する意識とケアニーズ、ケアの現状の調査を終え、平成 22 年度までの認知症高齢者を対象とした調査結果と合わせ、介護保険施設入所中の認知症高齢者へのフットケアに関する課題の抽出を行う。

以上の結果を用いて、平成 23 年度～24 年度にかけて、介護保険施設にて実践可能な足のアセスメント指標の開発および介護保険施設にて実践可能なフットケアプログラムの作成をケア介入を取り入れながら実施していく予定である。

5. 代表的な研究成果

[学会発表] (計 2 件)

- ①西田佳世、岡村絹代、坂下恵美子、渡邊円、西田真寿美：介護保険入所中の認知症高齢者の足。足趾の現状と課題，第 36 回日本看護研究学会学術集会，平成 22 年 8 月 22 日，岡山コンベンションセンター（岡山市）。
- ②西田佳世、岡村絹代、西田真寿美：高齢者施設で生活している認知症高齢者の足趾間湿度の現状とフットケアの課題，平成 22 年 12 月 3 日，札幌コンベンションセンター（札幌市）。